



小池 光選

「母」やろかそれとも「おカン」で登録か息子のスマホの中のわたしは 芦屋市 宮本 允子

【評】母のアドレスをどういう名前か登録しているか、どうでもいいことだけれど、ちょっと気になる。「母」か、「おカン」か、どちらでもないような気もするが。

受かったよ孫のラインに病院の待合室でガッツポーズす 東京都 関 雪子

【評】孫の大学入試合格の知らせか、就職試験合格か。ひととき自身の病を忘れて、思わずガッツポーズ。まわりの人はびびくりしたろう。なによりの治療になった。

枯菊を焚けばほのかな香りあり用あるごとく犬歩みくる 栃木市 井岡 幸男

【評】犬が菊を焚く香りに引かれてやってきたわけではないが、そんな感じになるころがおもしろい。簡素な表現に奥行きがある。「海ゆかば」歌い英霊迎えたる少国民われ八十路を越えぬ 埼玉県 真下 杏子

タグ付きのままに残りし亡き姉のカーティガン着る季節が来たよ 高崎市 浜田美也子

栗木 京子選

獅子柚子のひとつ置かれし作業台ヤスリは歳を削りてをりぬ 昭島市 杉山 尚

【評】歳晩の仕事場であろう。獅子柚子の迫力ある形や黄の色合いや香りが、今年一年の邪気を払ってくれる。「歳を削りて」というヤスリの動きが空間を引き締めている。

アドベントのお菓子を日目の憂ひ消え子供になつて一の箱開く 奈良県 藤本 京子

【評】アドベントカレンダーはクリスマスまでの四週間を数えるための暦。日替わりの菓子が隠されている。一日目を開けるうれしさは、まさに「子供になつて」の心境。

三百が二百となりて今五十やうやくしがらみ無き質状書く 国分寺市 加藤 武夫

【評】退職したり年齢を重ねたりすると付き合いの範囲が絞られてくる。オンラインでの挨拶も増えた。数字に実感のこもる一首。さあさと雨と風と人が行く師走はなぜか全てがはい

晦日まで働き暮れて帰省する二等船室馴染の顔と 大阪市 酒井 真夫

取り組みに炬燵の脚を握りたる父想い出す九州場所よ 松江市 三方 純子

依 万智選

水換えを引き継ぐ人はいないから花瓶を洗う退職の朝 大和郡山市 本田 岳

【評】仕事の引き継ぎは済ませたのだから「花を飾る」という個人の営みは、次の人に強制するわけにはいかない。マメに水を換え、職場に花を飾ってきたこの人の仕事人生。その仕上げのような下の句が胸に響く。

ひよごりの鋭く鳴きてある午後の耳の螺旋に沁みこむ寒気 市原市 井原 茂明

【評】耳という常に外気にさらされている器官の特徴を生かして、冬の空気が伝わってくる。入ってくる音と寒気。「螺旋」が印象的だ。冬らしい気圧配置になるらしい私はわたしらしくいでしょうか 国立市 武井 恵子

【評】ふと自分を客観視する瞬間をとらえた一首。ニュースなどでよく耳にする表現だが、二つの「らしい」からの展開が面白い。ジャンパーの裾から覗くセーターの若草色がわたしの春だ 大和郡山市 大津 穂波

あとわずか根雪のように納まって使い切れないリップクリーム 東京都 音羽 凜

なにもかも否定する子にそっと出すふたつ並べたリングのうさぎ 船橋市 矢島 佳奈

教室の窓より光差し込みてツル折る君は子等の輪の中 奥州市 境 朝子

黒瀬 珂瀾選

コンビニのおでんごっそり買行けば明日通夜の家少しぬくもる 滝沢市 小田佐枝子

【評】下村桃太の「死にたれば人来て大根煮さほじむ」を思い出しました。葬祭という非日常に入るために食べ物を用意する。おでんの温もりが親族の心を慰めるでしょう。

ほこほこ茶の花の咲く小春日を母の花好き遣伝子とゆく 下野市 海老原愛子

【評】私の花好きは母ゆずり。それを、母の遣伝子が私の中に伝わっているからだ、と表現した点がユニーク。お母さんもうして、花の季節を散歩されたのでしょうか。子とはそれ未来の調ひ紛争の瓦礫の間の本を並ぶ 藤岡市 丸山 直樹

【評】ウクライナでもガザでも、どんな戦地でも、子どもの学びを守り抜きたい。子どもが未来の平和を築いてくれることを願って。ガソリンがなければロバで退避するガザの人等の果てなき道程 大阪府 平山 澄恵

新しき暦の二月にスギ花粉薬用意と☆を朱で書く 水戸市 大野太加し

くらがりに置かれてもなお球根は網より出せと白き根伸ばす 可児市 阿坂 れい

デジタルと省エネの世に働けば紙とインクに残らぬ仕事 立川市 市川 純

旧姓で呼び止められて一瞬にミニスカートの〇しになる 岩国市 須山佳代子

犬連れの人ら犬より楽しげに夕焼けのなか輪を作りおり 小平市 栗原 良子

クリスマスのお祝い思い出すしゃがれ声チバユウスケのいないこれから 東京都 仲原 佳

◇投稿規定◇ はがき1枚に未発表の1作品。住所、氏名(ふりがな)、電話番号を明記。◇他の媒体、選者への二重投稿は厳禁です。選者が添削することもあります。〒103-8601、日本橋郵便局留、読書歌(俳)壇、〇〇先生(希望選者名)係または読書新聞オンラインから ◇毎週月曜日に掲載 右の影絵はもちはな